

- 個別学習 ■ 児童生徒実践型
- 協働学習 ■ 児童生徒発表型

実践タイトル 伝えることを意識した作品作りを試行錯誤

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

電子黒板・タブレットPC

・写真に載せる言葉のレイアウトや大きさ、色を試行錯誤しながら考えるために、一人一人がタブレットPCを活用する。電子黒板で表現の工夫を共有する。

児童が撮影した静止画

・自分が作成した商品の写真を使うことによって、学習への意欲を高めることができる。

参考にしてほしいポイント

- ・保護者や地域の方に教えてもらいながら、被災地の救済を目的として作った「貴志っ子ショップ」の商品の写真を使うことで、学習への意欲を高める。
- ・一人1台のタブレットPCを使い、表計算ソフトウェアのワードアート機能で写真の上に文字を載せる。文字の大きさやフォントの種類、配置などを試行錯誤しながら作品を作り上げていく。
- ・電子黒板に児童の作品を映し、伝えることを意識した作品にするためにはどうすればよいか、実際に操作し、目で確かめながら話し合いをすすめる。

本時の展開(主な学習活動)

学習の流れ(分)	主な学習活動	ICT機器・教材、コンテンツ等
導入 0 10	・自分の作品をみんなに紹介する。 ・友だちの作品を見て、いいところ、工夫しているところを発表する。	・児童が撮影した写真(写真1) (電子黒板・表計算ソフトウェア)
展開 10 30	・表現したい思いや意図がより伝わるように、もっと工夫できるところはないか、アドバイスし合う。	・児童が撮影した写真(写真2) (電子黒板・表計算ソフトウェア)
まとめ 30 45	・自分の表現を見直し、文字の入れ方や配置等を工夫する。	・児童が撮影した写真(写真3) (タブレットPC・表計算ソフトウェア)

総合的な
学習の時間



写真1: 前時に作った作品を発表する



写真2: 表現の工夫について話し合う

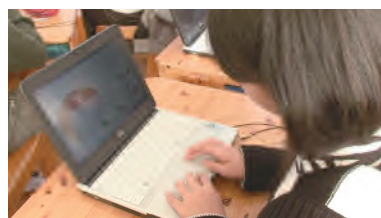


写真3: 自分の作品をブラッシュアップする

ICT活用への児童生徒の反応等

- ・児童が電子黒板に自分の作品を映して紹介したので、友だちの作品のよいところをみんなで共有することができた。
- ・絵や文字をかくことが苦手な児童でも、苦手意識を持たずに、自信を持って活動することができた。

活用効果

評価の観点	・興味・関心・態度	具体的変容	・タブレットPCの活用で試行錯誤を繰り返しながらも児童の新たな発見があり、それを使って自分の作品に取り入れることができ、すべての児童が意欲的に取り組めた。 ・電子黒板に自他の作品を大きく映し出すことで児童の興味・関心を引き出し、また対比が容易であるため自分の思いや工夫をわかりやすく説明できた。
-------	-----------	-------	--

実践の手応え

- ・手書きではできないことも、タブレットPCを利用することで、表現することが可能になる。一人1台のタブレットPCを利用することができるので、個性を生かした作品を作ることができ、製作活動にひたることができた。